

高校女子 試合レポート

2月7日からの大雪の影響で延期されていた、高校女子新人戦が大会日程を縮小して2月19日に準決勝・決勝をさいたま市堀崎公園サッカー場で行われました。

県立高校入試や学年末試験が近づく中、やむを得ない事情とはいえ1日2試合の厳しい日程で、さらに2週間近く間が空き、モチベーションの維持も大変だったと思います。厳しい状況のなか、生徒たちはベストなパフォーマンスを出し切れなかったかもしれませんが、非常に見応えがあり、レベルの高い試合が行われました。

準決勝第1試合

山村学園 1-0 久喜

(1-0-0-0)



キャプテンのコイントス

山村学園のキックオフが始まる。



久喜ゴールに迫る山村学園

開始1分山村学園左からドリブルで久喜ディフェンスを突破、久喜ディフェンスが整う前に中央でフリーになった。つていた7番にパス、GK

が出たところをうまく流し込むようなシュートは、わずかにポストの左にはずれる。

その後、久喜は自分たちのペースを取り戻し、細かいパスをつなぎ、次々に山村学園DFラインの裏を狙うが、山村学園センターバック2枚の前面になかなかシュートチャンスまでは行けない。久喜は山村学園サイドで優位にゲームを進めていたかに見えたが、「分スルーパスを受けた山村学園10番が、やや右サイドよりからドリブル突破し、ペナルティエリア外から逆風をついてミドルシュート。これが久喜ゴール中央につき差刺さり山村学園が先制する。

その後、久喜がボールを支配し風上を利用し山村学園サイドでゲームを進めるも、山村学園DFを崩せず前半を終える。

後半も久喜がボールを支配する時間が多くなるものの、山村学園は、センターバック2枚のカバーリングと風をうまく使ったクリアで陣地をばん回し、押し戻す展開が続いた。

お互い、コンパクトな陣形で戦い、時折チャンスを迎えるが、ゴールを奪うまでには至らず、山村学園が前半の1点を守り勝利した。

準決勝で敗退した久喜は、3位となった。



3位の表彰を受ける久喜高校

準決勝第2試合

入間向陽 3-1 浦和西

(3-0-0-1)

昨年この大会優勝の入間向陽対同3位の浦和西の対戦。どちらも熱心な保護者・



試合前セレモニー



激しく競り合う両チーム

卒業生の応援がチームを後押しする学校。し

かし、この堀崎公園は住宅街にあるため、応援歌や声援は控えるよう利用規定にあり、この対戦に似つかわしくない静かなキックオフ。

開始3分、入間向陽は得意のサイド攻撃を左からしかけ、ゴール前にクロスを入れ、と、ファーから9番がヘディングでゴール左隅に決める。入間向陽が先制する。

その後も前半風上に立つ入間向陽が浦和西陣内に攻め込み、入間向陽ペースで試合が続く。お互い中盤で細かくパスをつなぎ、エース10番を中心にゲームを展開する。浦和西は10番にボールを納め、そこから相手DFの裏で勝負をしかける。一方入間向陽は、中盤からサイドへ展開し、サイドからのアーリーやマイナスクロスで10番が決めるというのが得意な形。

しかし、意外な形から試合

が動く。

5分、入間向陽は浦和西陣内右サイドでの攻防からこぼれたボールを11番が拾い、ワンドリブルから低いシュートを放つ。これが浦和西のゴール左隅に決まり追加点(2-0)。

さらに、その後29分左コーナーキックを得た入間向陽は、10番がゴール中央に蹴り、9番がヘディングシュート、これがDFにあたりコースが変わる。GKが反応し必至にかき出そうとするが間に合わずゴールイン。入間向陽が3点リードで前半を終える。



ハーフタイムで指示を受ける両チーム



後半入間向陽は、数的優位をつくり浦和西の10番をフリーにさせず攻撃の起点を作らせない。しかし、浦和西は43分10番が入間向陽ゴールキックをワントラップしミドルシュート(3-1)。1点を返し反撃ののろしかと思われたが、2点差が重く入間向陽が決勝への切符を手にした。

準決勝で敗退した浦和西は、3位となった。



激しいゴール前の攻防

この日2試合目となる両校の対戦。山村学園は公式戦初優勝を、入間向陽は第1回大会から3連覇して以来の新人戦連覇を目指し対戦した。

女子部委員長が決勝の主審。入間向陽のキックオフで試合開始。

開始1分キックオフ直後にボールを奪った山村学園は、左サイドから10番が抜け出し、中央に切れ込んで

決勝戦 山村学園 3-1 入間向陽 (10-2-1)



3位の表彰を受ける浦和西高校

いきなりのシュート。やや前めにいたGKの頭上を越えてボールはクロスバーを直撃、その跳ね返りを9番が押し込み山村学園が先制する(1-0)。

入間向陽、気を取り直してのキックオフで試合再開。先制を許してからは、自分たちのリズムをつかむべく、中盤でパスをつなぎサイドへ展開し、アースクロスやマイナスクロスを入れるスタイルを貫く。一方の山村学園は、入間向陽DFの裏へ蹴り込んだり、蹴ると見せかけてドリブル突破を仕掛けた



パスを要求する山村学園

り、両チームがここまで戦ってきた自分たちの持ち味を活かしたゲーム展開を披露する。しかし、両チームともディフェンスの意識が高く、引き締まったゲーム内容で時間が経過する。

前半風上に立つ入間向陽は、何度も山村学園ゴール前に迫るがシュートには至らず、前半はシュート0に押さえ込まれてしまう。一方の山村学園も、入間向陽に攻め込まれガマンの展開が続く、時折ショートカウンターで入



入間向陽右から3人目が得点者

間向陽ゴールに迫るが、決定的な得点機は得られず、こちらも前半シュート4本とお互いDFががんばるといった戦いとなり山村学園が1点リードで前半を終える。

後半に入り、開始直後にまたしても山村学園がたて続けに入間向陽ゴールを脅かす。35分スルーパスに反応した10番が入間向陽DFを振り切ってGKと1対1となるが、シュートはGK正面。さらに30分山村学園6番が入間向陽ペナルティーアークあたりでボールを奪い、そのままシュート。GKは意表をつかれて反応できずゴール左に吸い込まれ、山村学園が追加点を挙げ2-0とリードする。

疲れの見える始めた入間向陽は、徐々にパスミスが目立ち始め、自分たちのリズムを作れない。後半風上に立った山村学園DF陣は、安定して入間向陽に決定機を作らせてない。

しかし、34分入間向陽は山村学園の左サイドを突破し、入間向陽10番がそれまで崩れなかった山村学園CB2番を個人技で振り切り、ゴール中央へクロスを上上げる。これを9番がヘディングで決め1点を返し、山村学園リードの2-1とする。

山村学園は前掛りになった入間向陽の虚を突き、再開直後に11番が抜け出しGKと1対1となるが左ニアサイドを狙ったシュートは、入間向陽GKが横に飛びコーナークICKに逃れるスパークを射た。最大のピンチを逃れたかに見えたが、35分その



ピンチを救った入間向陽 GK



山村学園の3点目

最後まであきらめず必至にゴールを目指す入間向陽に対して、守備の安定した山村学園は、後半も許したシュートは失点の1本のみに抑

コーナーキックがゴール前の混戦の中、不運にも入間向陽選手に当たりオウンゴール(3-1)。

最後にゴールを指す入間向陽に、守備の安定した山村学園は、後半も許したシュートは失点の1本のみに抑



初優勝の山村学園選手

山村学園 初優勝

え公式戦初優勝を手にした。決勝戦にふさわしく、それぞれのチームが、自分たちの持ち味を出し切った非常にレベルの高い好ゲームとなった。

優勝した山村学園(旧校名山村女子)は、すべての公式戦を通じて初優勝。新人戦2連覇を狙って決勝を戦った入間向陽も、チームとしてまとまったすばらしいチーム。決勝では山村学園のDFを崩しきれず準優勝でした。1日2試合を戦い気力を振り絞って競い合った両校に賛辞を贈りたいと思います。また、3位になった



喜び爆発

当日は、NACK5の取材もあり、今後も高校女子サッカーの注目度アップ必至だと思います

FM NACK5 の取材



準優勝の入間向陽、心は一つの
チームワークが持ち味

久喜と浦和西もチームとして非常によくまとまっています、確固たる自分たちのプレースタイルを持っている。
女子の場合は、体調管理が非常に難しくまた競技年数も浅い選手が多いため、勝敗を分けたのはちよつとしたことだと思えます。そこを上手にコントロールできるか選手個人の成長に期待し、4月に行われるインターハイ予選を楽しみに待ちたい。



取材を受ける山村学園キャプテン



今大会は、20年ぶりの大雪とあつて大会日程や会場が二転三転し、関係各所には大変お世話になりました。

次大会は4月の学校総体

次の大会は、4月中旬から行われる学校総体(インターハイ埼玉県予選)です。
決勝の舞台は、5月11日「女子サッカーの聖地」さいたま市浦和駒場スタジアムで行われます。
今後とも高校女子サッカーへの応援をよろしく願っています。

保護者の方をはじめとして卒業生、前所属チーム関係者の皆様、大会運営にご協力をして頂きこの場をお借りして運営サイドからお礼申し上げます。
ありがとうございます。



埼玉の高校で
女子サッカー
一緒にやろうよ
楽しいぞ(*^o^*)

